

造影CT検査を受けられる方へ

検査説明書

今回の検査ではヨード造影剤を注射(点滴)させていただきます。

造影剤は改良が重ねられて安全性の高いものになっており、数時間で主に腎臓から尿として排泄されるものですが、他の内服薬や注射薬と同様に稀に副作用が生じることが知られています。

そういう次第ですから、検査の内容、必要性の説明、予後、危険性等について十分に納得なされた上で、検査の実施に同意・承諾致していただきたいと思っております。

検査の目的について:通常の検査では分かりにくい病気の有無や程度をはっきりとさせ、正確な診断をつけることです。

出る可能性のある主な副作用とその頻度:蕁麻疹、発疹、掻痒感、顔面紅潮、動悸、頭痛、めまい、嘔吐、気分不良、発熱が主なものです。このような症候は検査中～数時間後(多くは投与直後で、おおむね6時間以内)に現れることがあります。その頻度は3%以内です。

注意しなければならない副作用は、急激な血圧低下によるショック、咽頭喉頭浮腫による呼吸困難、呼吸停止などです。このような重篤な副作用が起きる頻度は0.1%未満ですが、ごく稀に死亡することもあるのも事実です。

副作用の予測:造影剤の副作用は完全には予測できないと言われております。

しかし、副作用が起りやすい体質かどうかについては、検査前に問診を行うことで見当をつけることができます。

特異体質・喘息・アレルギー等については必ず申し出て下さい。以前に造影剤の注射を受けた時に副作用があったかどうかは特に大事です。申し出がなかった場合は、いかなる責任も取りかねます。

造影検査の禁忌:以前にヨード造影剤で副作用を生じたことのある方、重篤な甲状腺疾患のある方は基本的には検査ができません。気管支喘息や腎不全の方も注意が必要です。

それ以外にも幾つか注意しなくてはならない場合がありますので、問診表は正確にお書き下さい。

副作用の対策:ショックなど重篤な副作用が生じた場合に備えて、検査には医師が立ち会い、昇圧剤・ステロイドホルモンなど薬剤の準備や気管内挿管の器具など救急処置の準備をして検査を行います。しかし、副作用の程度によっては救命措置に反応せず死亡することもあります。いかに迅速に、完璧な救急・蘇生術を行っても死亡するほどの副作用は17万回に1度位の割合で生じることも申し添えておきます。

